

(別添 4)

【遊佐町】

1 人 1 台端末の利活用に係る計画

1. 1 人 1 台端末を始めとする ICT 環境によって実現を目指す学びの姿

学校教育を支えるツールとして ICT の重要性が増している中で、1 人 1 台端末と情報通信ネットワークの整備を進めていくことにより、1 人 1 人の習熟度や興味関心に応じた学習機会の提供を図る「個別最適な学び」と、児童生徒同士の協働や地域・外部機関との連携による学習の場を創出する「協働的な学び」、登校が困難な児童生徒や個別の配慮が必要な児童生徒への学習機会を提供する「学びの継続性の確保」の実現を目指す。

2. GIGA 第 1 期の総括

本町では令和 2 年度にタブレット端末・学習支援ソフトの導入、ネットワーク整備を行った。また、貸出用モバイル Wi-Fi ルーターを整備し、学校だけでなく家庭学習においても端末の利用促進につなげた。加えて ICT 支援員を配置し、端末活用の指導や教員向けの研修や授業のサポートを実施している。これにより、GIGA 第 1 期において、すべての児童生徒に端末が行き渡り、授業内での ICT 活用が進んだ。登校困難な児童生徒への学習保障として、ICT を活用した取り組みも効果を発揮した。しかし、学習支援ソフトの活用状況、家庭学習での活用にはばらつきがあり活用の格差が見られる。

ネットワーク環境においては、小学校統合による生徒数増加等によって推奨帯域を満たしていない現状がある。

3. 1 人 1 台端末の利活用方策

(1) 1 人 1 台端末の積極的活用

研修会の実施や ICT 支援員によるサポート等を通し、教職員が ICT 活用の目的を理解し指導力が向上するように支援する。また、学校における ICT 利用に関する取り組みや課題を家庭と共有し、児童生徒が端末を家庭で積極的に活用できるよう連携を図っていく。より効果的に活用を進められるようドリルアプリ、学習支援ソフトの見直しを図り、学校のみならず家庭での活用を促進していく。

(2) 個別最適・協働的な学びの充実

一人一台端末を活用した学習は、個別最適な学びと協働的な学びの両面に有効である。児童生徒のよりよい学びの姿を引き出せるよう、ICT 活用に関わる研修を通して具体的な活用事例の情報共有を図っていく。また、校務 DX を進めることで、教員がより指導に専念できる環境を整備し、教育の質の向上を目指す。

(3) 学びの保障

不登校や特別な支援を要する児童生徒に対しては、オンライン学習、AI 機能を有するドリルアプリ、学習支援ソフト、翻訳機能アプリ等を活用し、個々の状況に合わせた支援を提供することで、児童生徒一人ひとりの学習ニーズや状況に柔軟に対応を図っていく。